SATOCK®

ダイレクトクリップDC19
(PAT.P)
標準施工要領書

[2025.11]

株式会社 佐藤型鋼製作所

目 次

1.　適用範囲 …… 2

2.　設計･施工上の注意事項 …… 2

3.　組付配置 例 …… 2

4.　部材一覧 …… 3

5.　標準施工手順 …… 4

6.　標準施工要領 …… 5

7.　施工例･納まり例 他 …… 14

付録　自主検査表 …… 17

1. 適用範囲

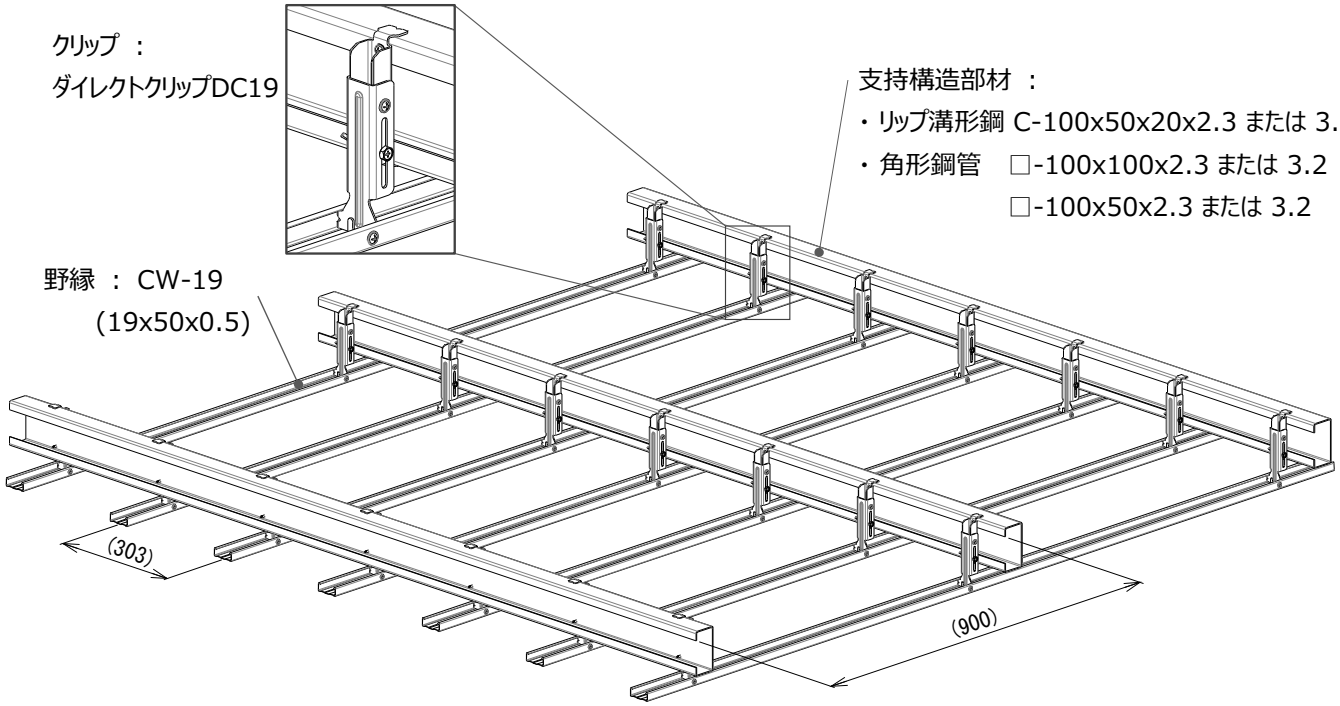
本施工要領書は、天井下地用金具「ダイレクトクリップDC19」の標準的な施工方法について定める。

ダイレククリップDC19 ： 鉄骨ぶどう棚などの支持構造部材へ19形ダブル野縁(JIS)を接合する金具

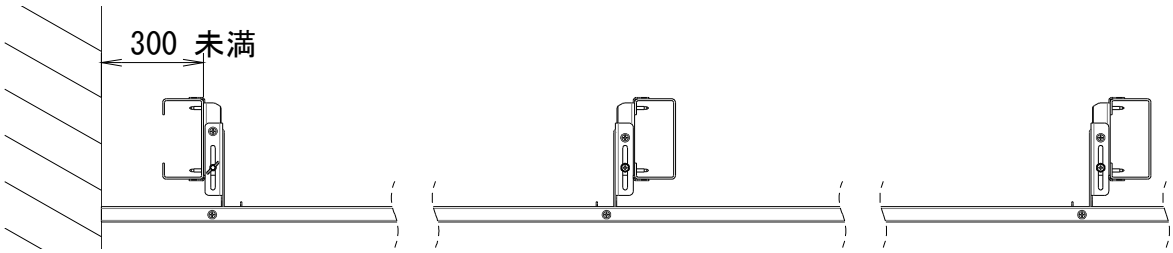
2. 設計・施工上の注意事項

1. 支持構造部材
   1) 別途工事。構造設計者による構造検討が行われている前提です。
   2) リップ溝形鋼または角形鋼管に取り付け可能です。（取付面高さ 100 ㎜。板厚 2.3 ㎜ または3.2 ㎜。）
   3) リップ溝形鋼の場合、リップ側・背面側(ウェブ側)いずれにも取り付け可能です。
   4) 間隔は 900 ㎜程度としてください。
   5) 壁際にて、野縁のはね出し寸法が 300 ㎜未満となるよう設置してください。(3.組付配置 例 参照)
   6) 開口部において、野縁のはね出しが 300 ㎜以上の場合は支持構造部材を追加設置してください。(7-2参照)
2. 野　縁
   1) 支持構造部材と野縁が直交している場合にのみご使用いただけます。
   2) 組み付け可能な野縁は19形ダブル野縁(JIS)のみです。
3. レベル調整
   1) 野縁レベル調整幅は最大50 ㎜です。(6-1参照)
   2) 支持構造部材下端と野縁下端の距離が 28 ㎜程度～78 ㎜程度の範囲内に納まるように設計してください。
4. 設備機器類
   1) 設備機器類は躯体・支持構造部へ取り付けてください。

3. 組付配置 例

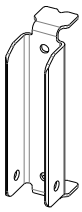
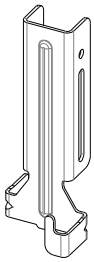
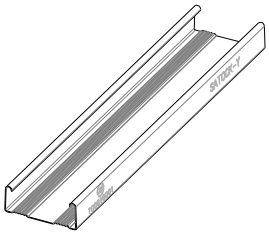
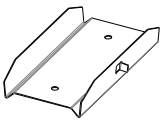
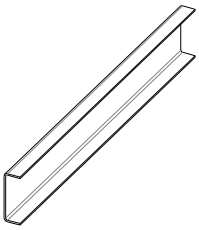
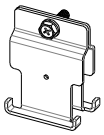


壁際の支持構造部材へのダイレクトクリップDC19の取り付けが困難な場合は、取り付ける面を反転してください。
但し、支持構造部材 (ダイレクトクリップDC19取り付け面) からの野縁はね出し寸法は 300 ㎜未満としてください。



4.　部材一覧

このページ以降、丸囲み数字①～⑨ は 部材を表します。

① 	部材名称	クリップ
	品　名	ダイレクトクリップ固定側
	規格･材質	JIS G 3141 SPCC
	表面処理	三価ユニクロ
	備　考	(t=1.6 ㎜)
② 	部材名称	クリップ
	品　名	ダイレクトクリップ19可動側
	規格･材質	JIS G 3141 SPCC
	表面処理	三価ユニクロ
	備　考	(t=1.6 ㎜)
③ 	部材名称	野縁
	品　名	CW-19
	規格･材質	JIS G 3302 SGCC
	表面処理	Z12
	備　考	(19x50x0.5)
④ 	部材名称	野縁ジョイント
	品　名	WJ-50J
	規格･材質	JIS G 3302 SGCC
	表面処理	Z12
	備　考	(t=0.5 ㎜)
⑤	部材名称	付属ボルト･ナット
	品　名	アプセットボルト M5x35
	規格･材質	JIS G 3507 SWCH10R 相当
	表面処理	三価ユニクロ
	備　考	
⑥	部材名称	付属ボルト･ナット
	品　名	蝶ナット 2種 M5
	規格･材質	JIS G 3505 SWRM10R
	表面処理	三価ユニクロ
	備　考	
⑦	部材名称	専用ビス
	品　名	MJ16
	規格･材質	JIS B 1124 SWCH18A
	表面処理	三価ユニクロ
	備　考	(4×16)
⑧ 	部材名称	開口補強野縁受け
	品　名	CC-19
	規格･材質	JIS G 3302 SGCC
	表面処理	Z12
	備　考	(38x12x1.2)
⑨ 	部材名称	開口補強クリップ
	品　名	耐風圧Wクリップ(C-38用)
	規格･材質	JIS G 3323
	表面処理	K14
	備　考	高耐食めっき鋼板(t=1.6 ㎜) 付属部品 アプセットボルトM6x20

5. 標準施工手順

丸囲み数字①～⑨ は 部材を表しています。

1

墨出し

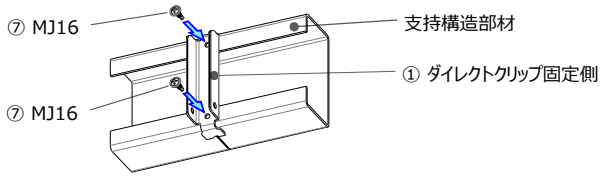
（Ｐ５）

平面図方向：③野縁 中心位置を支持構造部材の底に墨出し。
立面図方向：③野縁面（下端）の水平墨出し。

2

①ダイレクトクリップ固定側 を
支持構造部材 へ
固定

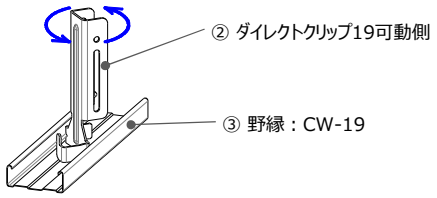
（Ｐ６）



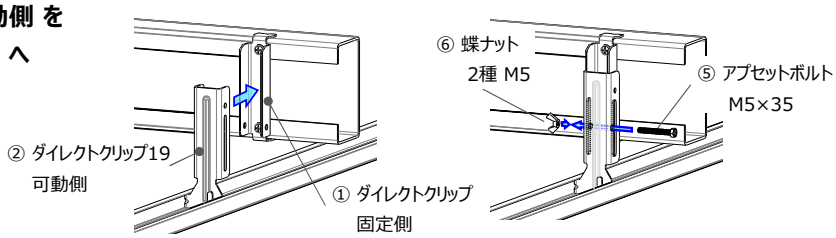
3

②ダイレクトクリップ19可動側 を ①ダイレクトクリップ固定側へ 仮組付け

1　**②ダイレクトクリップ19可動側 を**
③野縁 へ
仮組み付け
（Ｐ７，８）



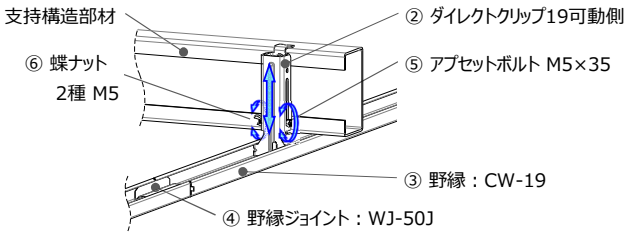
2，3　**②ダイレクトクリップ19可動側 を**
①ダイレクトクリップ固定側 へ
仮組み付け
（Ｐ７，９，10）



4

③野縁 レベル調整

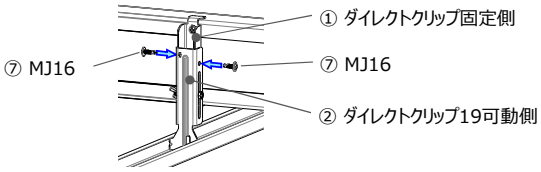
（Ｐ 11）



5

②ダイレクトクリップ19可動側 と
①ダイレクトクリップ固定側 を
ビス固定

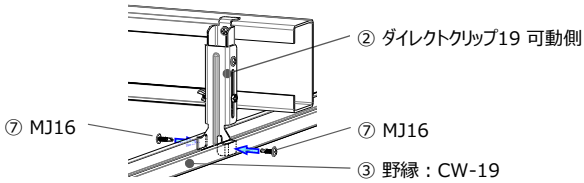
（Ｐ 12）



6

③野縁 と
②ダイレクトクリップ19可動側 を
ビス固定

（Ｐ 13）



7

③野縁レベルの確認 及び 点検

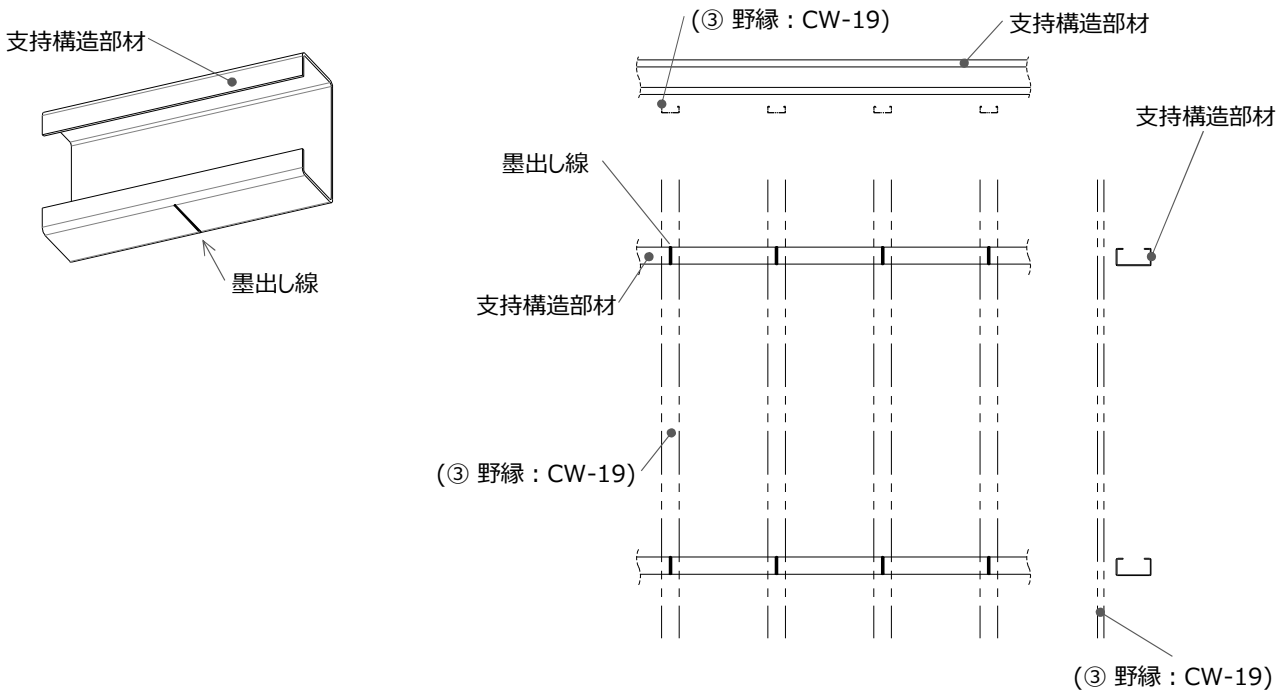
6.　標準施工要領

丸囲み数字①～⑨ は 部材を表しています。

6-1　墨出し

1　平面図方向：③野縁 中心位置を支持構造部材の下面に墨出し。

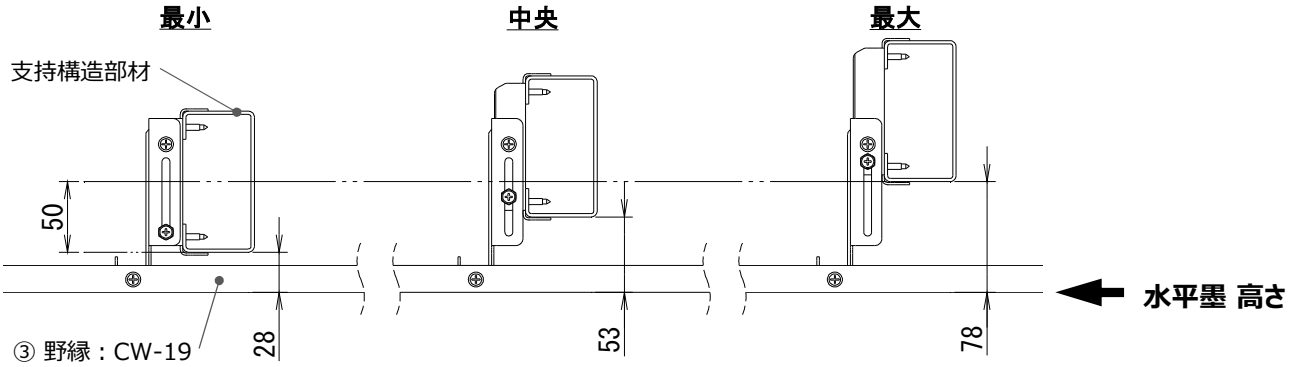
本墨出しは、ダイレクトクリップDC19組み付けの基準となるため、墨出し位置の確認を確実に行ってください。



2　立面図方向：③野縁面（下端）の水平墨出し。

③野縁 レベル調整幅の範囲内であることを確認してください。

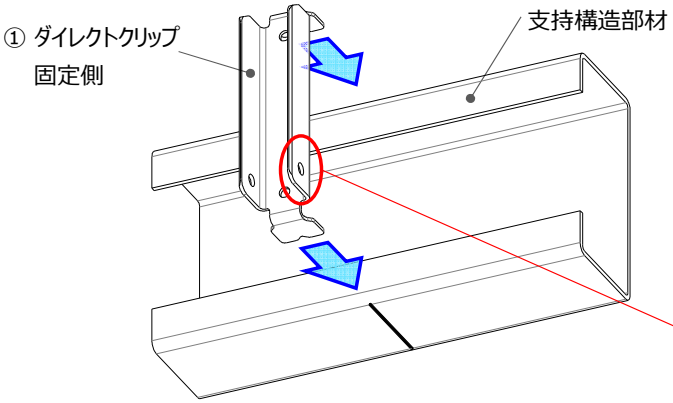
・ダイレクトクリップDC19の ③野縁 レベル調整幅　：　最大50 ㎜
・支持構造部材下端と ③野縁 下端の距離　　：　28 ㎜程度～78 ㎜程度の範囲内（中央値：　53 ㎜ ）

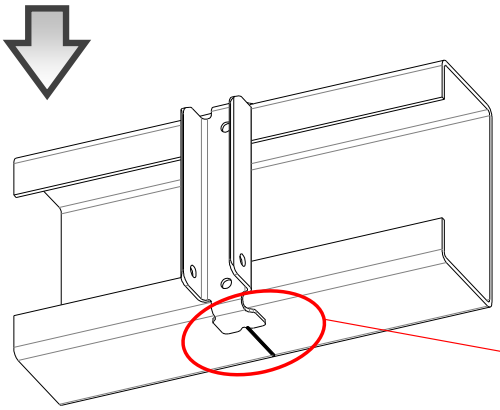


6-2　①ダイレクトクリップ固定側 を支持構造部材へビス固定

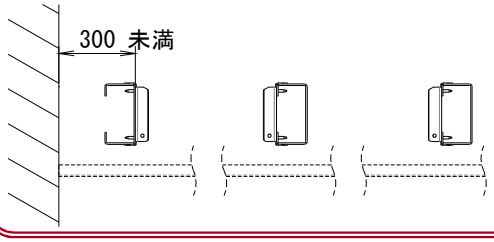
1　①ダイレクトクリップ固定側 を支持構造部材へ組み付ける。

ビス固定までは、脱落する可能性がありますのでご注意ください。

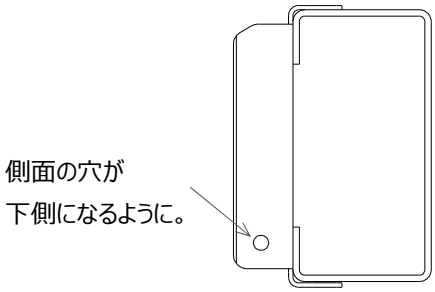




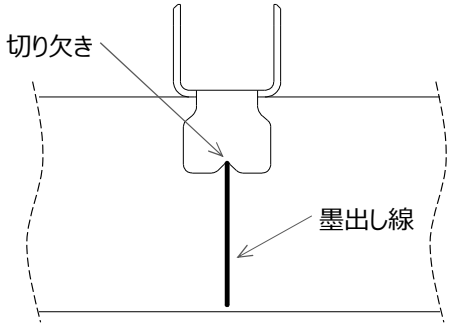
壁際でダイレクトクリップDC19の取り付けが困難な場合は、取り付ける面を反転。
ただし，
支持構造部材(ﾀﾞｲﾚｸﾄｸﾘｯﾌﾟ DC19取り付け面)からの野縁はね出し寸法は300 ㎜未満のこと。



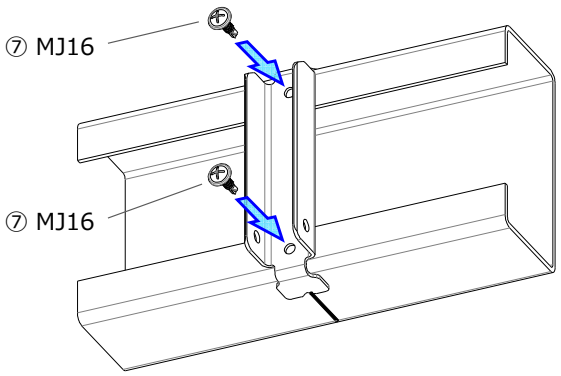
上下方向の向き：側面の穴が下側。

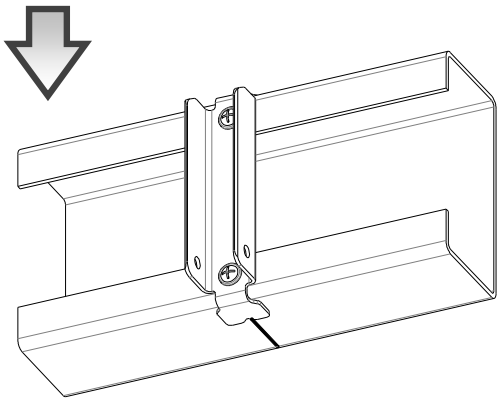


下面にある切り欠きの中心と
支持構造部の墨位置を合わせてください。

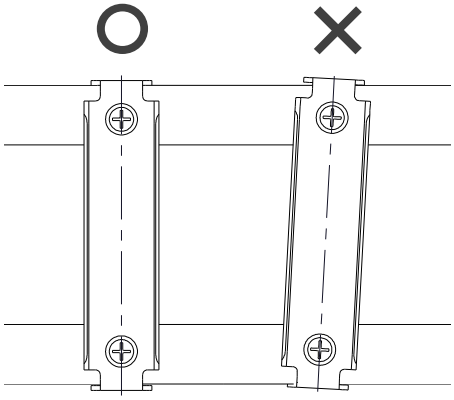


2 ビス固定 2か所





傾かないように留め付けてください。



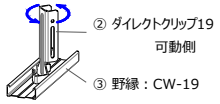
6-3 ②ダイレクトクリップ19可動側 を ①ダイレクトクリップ固定側 へ仮組付け (1/4)

■組み付け順と留意点

A　あらかじめ、③野縁 へ ②ダイレクトクリップ19可動側 複数個を組み付けた後、③野縁 を所定の位置へ配置する場合。

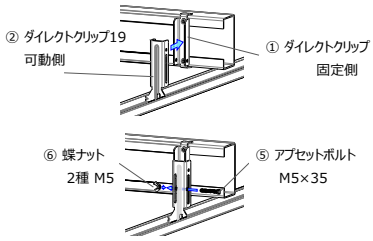
1　③野縁 に必要数(例：支持構造部材数量分)の
　②ダイレクトクリップ19可動側 を仮組み付け。

③野縁 を所定の位置へ配置



2　②ダイレクトクリップ19可動側 を位置調整し、
　①ダイレクトクリップ固定側 と嵌合。

3　⑤アプセットボルトM5×35 と ⑥蝶ナット 2種 M5 で 仮締め。

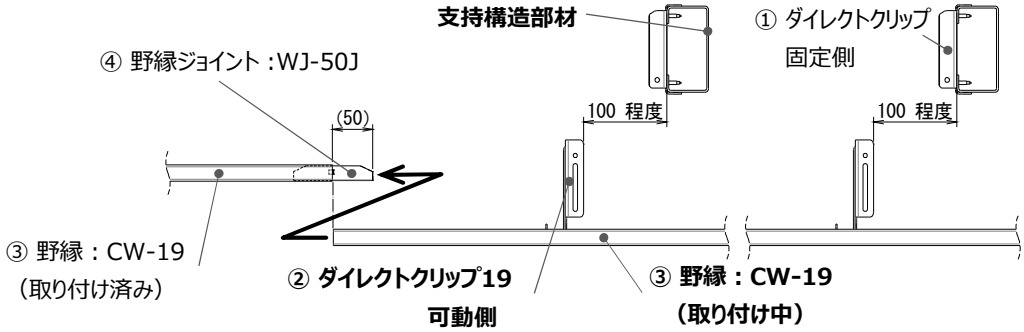


繰り返す

②ダイレクトクリップ19可動側 を仮組み付けする位置

■ **③野縁 を１本ずつ連結しながら取り付ける場合** ： 支持構造部材から **100 ㎜程度 の間隔**を設けてください。

③野縁を連結する際、②ダイレクトクリップ19可動側が支持構造部材(または①固定側)と干渉すると、連結の妨げになります。また、③野縁を変形させてしまう可能性があります。



■ **あらかじめ連結した ③野縁 を取り付ける場合**： 支持構造部材から **40 ㎜程度 の間隔**を設けてください。

②ダイレクトクリップ19可動側と①ダイレクトクリップ固定側を 多数箇所を同時に嵌合させることが困難なため。

■ **③野縁 を連結せずに取り付ける場合**： 支持構造部材のピッチに合わせた間隔で取り付けてください。

②ダイレクトクリップ19可動側と①ダイレクトクリップ固定側を 複数個所同時に嵌合させることが困難な場合、支持構造部材から **40 ㎜程度 の間隔**を設けてください。

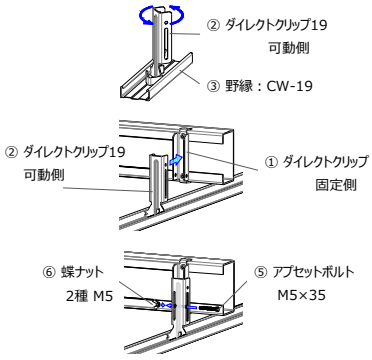
B　③野縁 を所定の位置へ配置した後、②ダイレクトクリップ19可動側 を一つずつ組み付ける場合。

③野縁 を所定の位置へ配置

1　③野縁 に ②ダイレクトクリップ19可動側 を仮組み付け。

2　②ダイレクトクリップ19可動側 の位置調整し、
　①ダイレクトクリップ固定側 と嵌合。

3　⑤アプセットボルトM5×35 と ⑥蝶ナット 2種 M5 で 仮締め。



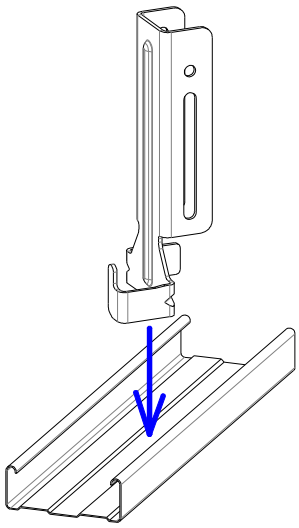
繰り返す

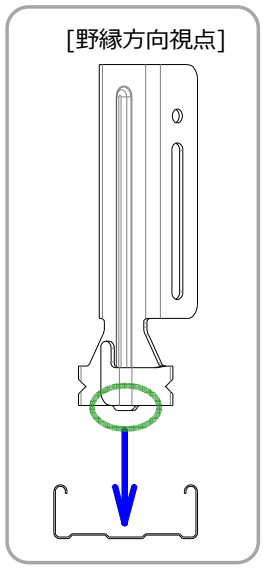
6-3 ②ダイレクトクリップ19可動側 を ①ダイレクトクリップ固定側 へ仮組付け (2/4)

1 ②ダイレクトクリップ19可動側 を ③野縁 へ 仮組み付け

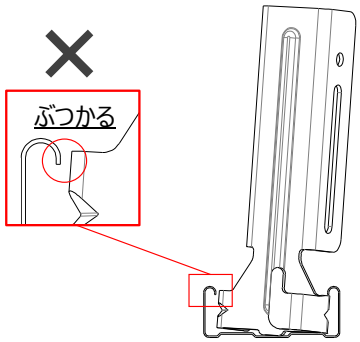
仮組付け完了後は、滑らせるように移動させることが困難なため、移動させる際は、
一旦組み付けを外す(時計回り回転)、またはハンマー等で軽く叩き移動させる必要があります。

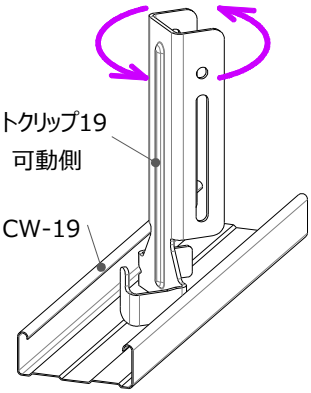
②ダイレクトクリップ19可動側 を 45°程度 時計回りに回転させた状態で、
下端の凸部を ③野縁 中央付近に当て、反時計周りに回転させ ③野縁 へ組み付ける。

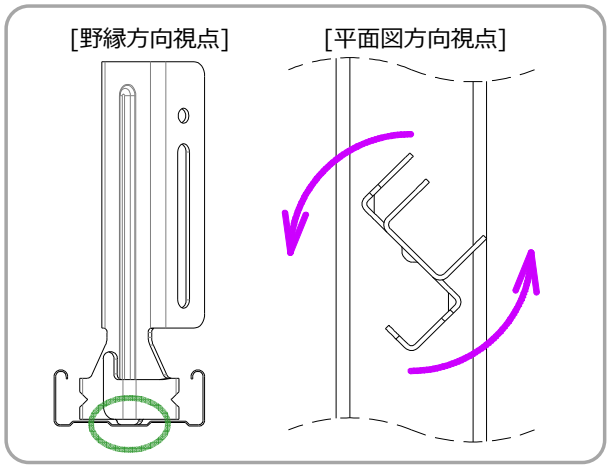


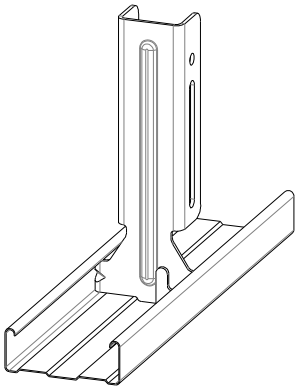


②ダイレクトクリップ19可動側を回転させる際は、
大きく傾けないこと。
③野縁 リップ部を変形させないため。



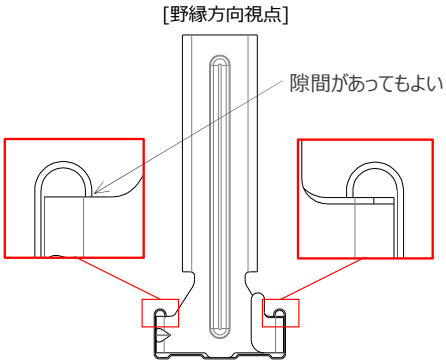


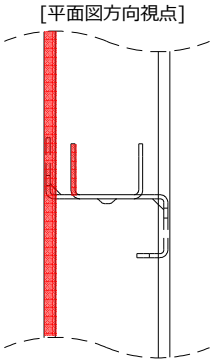




③野縁の折り返しリップ部(両側)に
嵌合していること。

めやす：コ形部分の側面と
③野縁が ほぼ平行になっている。

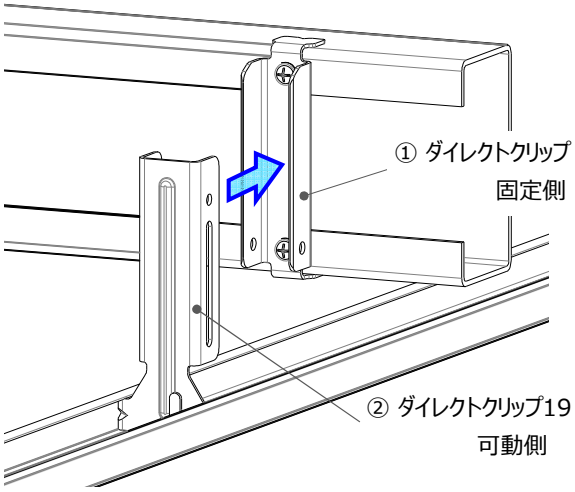


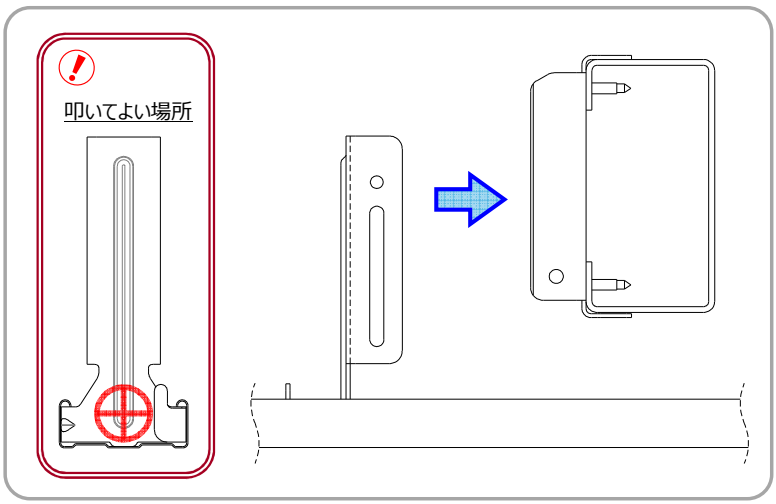


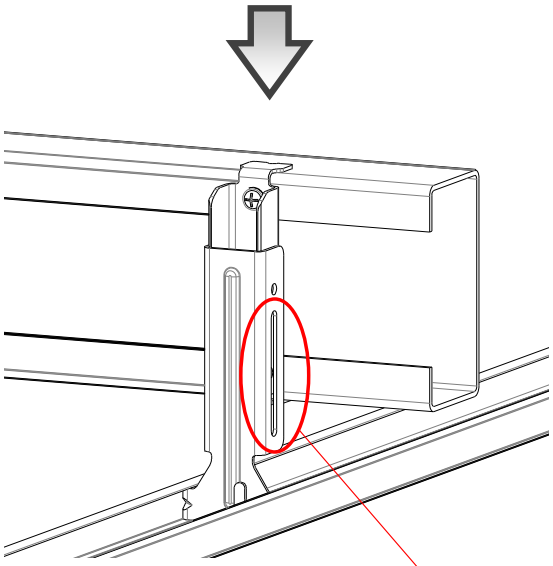
6-3 ②ダイレクトクリップ19可動側 を ①ダイレクトクリップ固定側 へ仮組付け (3/4)

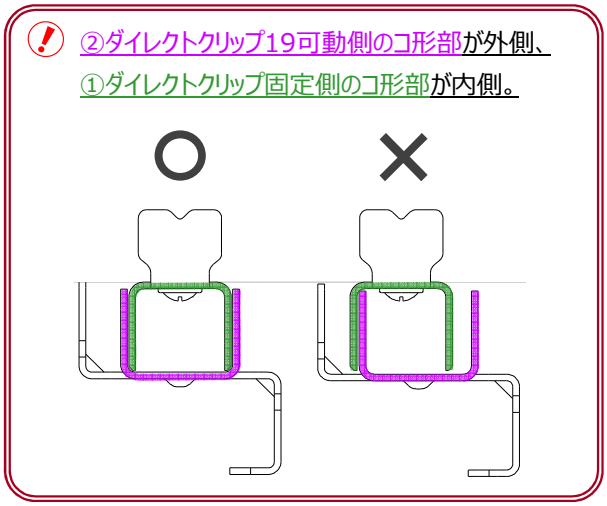
2　③野縁 を野縁方向の所定の位置に保持し、②ダイレクトクリップ19可動側 を移動させ ①ダイレクトクリップ固定側 と嵌合。

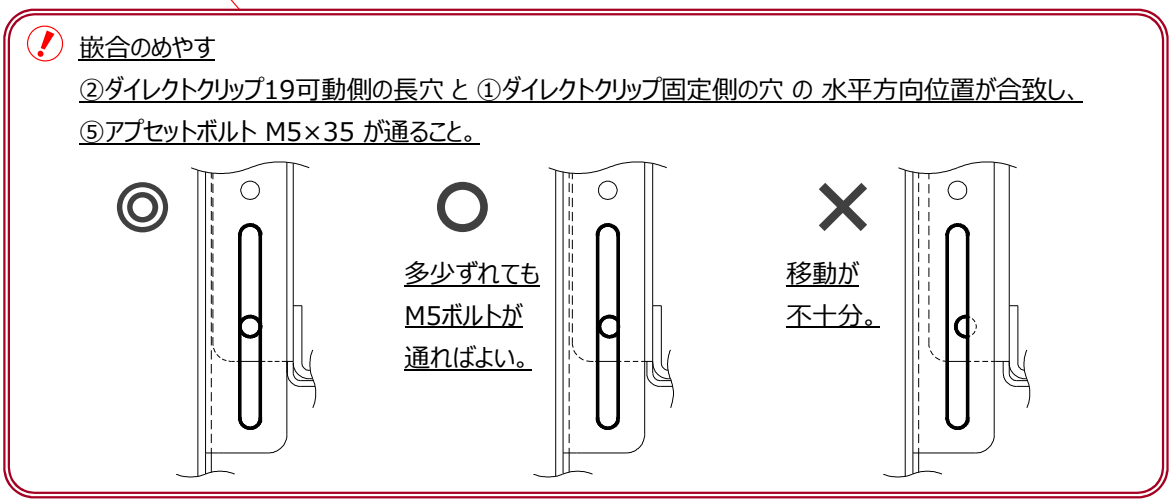
②ダイレクトクリップ19可動側を移動させる時は。
・移動量大　　：②ダイレクトクリップ19可動側と③野縁の仮固定を一旦外し、①ダイレクトクリップ固定側付近で再度組み付ける。
・移動量小・調整：②ダイレクトクリップ19可動側の下部（ 下図 ⊕ あたり)をハンマー等で軽く叩き移動させ、
②ダイレクトクリップ19可動側のコ形部 を ①ダイレクトクリップ固定側のコ形部に被せて嵌合する。







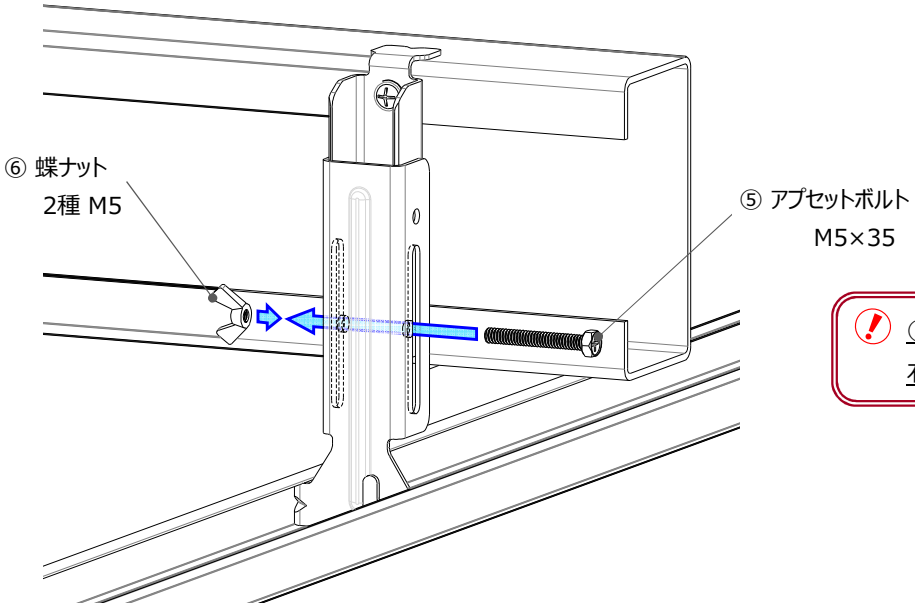




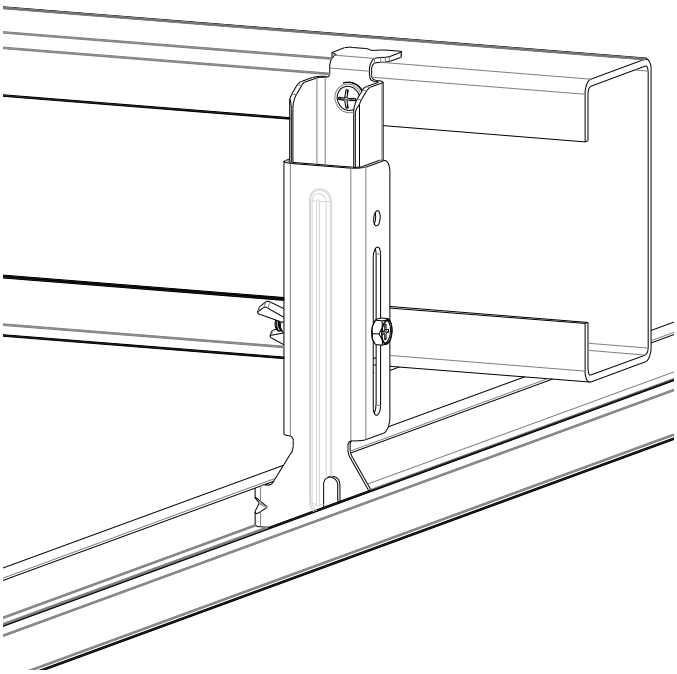
6-3 ②ダイレクトクリップ19可動側 を ①ダイレクトクリップ固定側 へ仮組付け (4/4)

3　②ダイレクトクリップ19可動側 の長穴内に位置している ①ダイレクトクリップ固定側 の穴へ
⑤アプセットボルトM5×35を通し、⑥蝶ナット 2種 M5 で 手締めにて脱落しない程度で仮締めする。

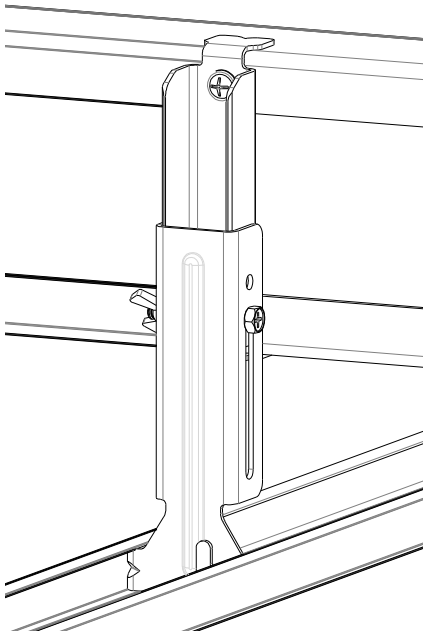
この工程で ③野縁 レベル調整を行わない前提 で表記しています。



⑤アプセットボルト M5×35を通す方向は、
右から・左から いずれでも構いません。

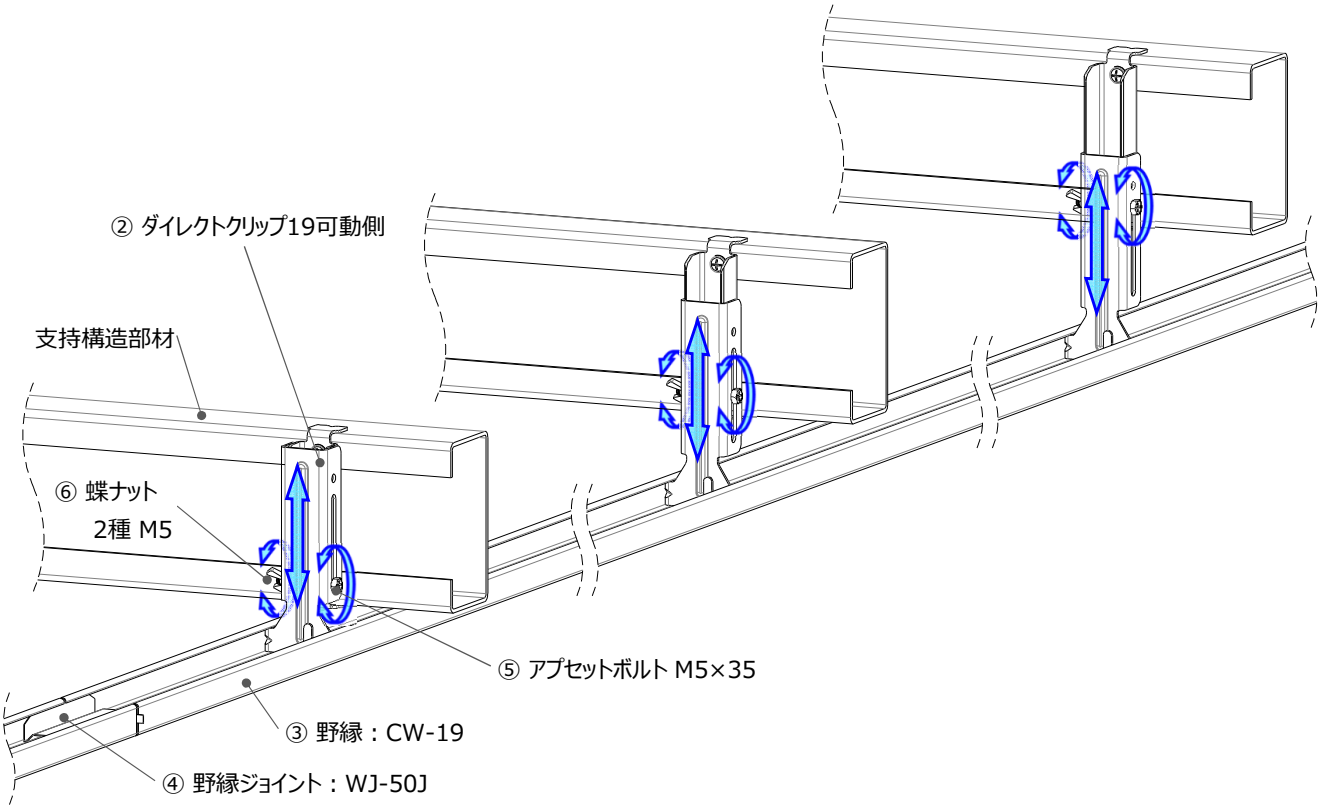


● ボルトが長穴の最上部にある状態で
問題ありません。



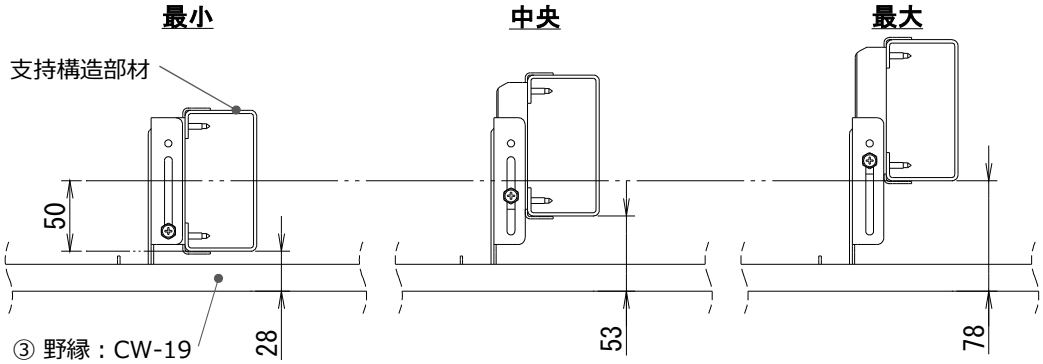
6-4 ③野縁 レベル調整

6-1 にて墨出しした ③野縁面（下端）の墨出し線 にあわせて、③野縁のレベルを調整し、
②ダイレクトクリップ19可動側の長穴内に通している ⑤アプセットボルトM5×35 と ⑥蝶ナット 2種 M5 で本締めする。

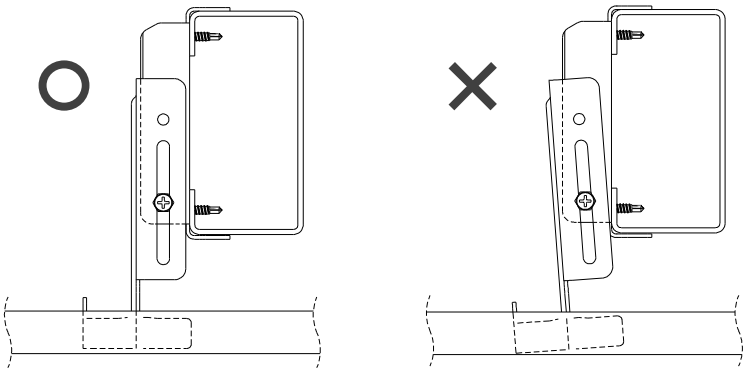


③野縁 レベル調整幅

・ダイレクトクリップDC19の ③野縁 レベル調整幅 ：最大50 ㎜
・支持構造部材下端 と ③野縁下端 の距離：28 ㎜程度～78 ㎜程度の範囲内（中央値：53 ㎜）



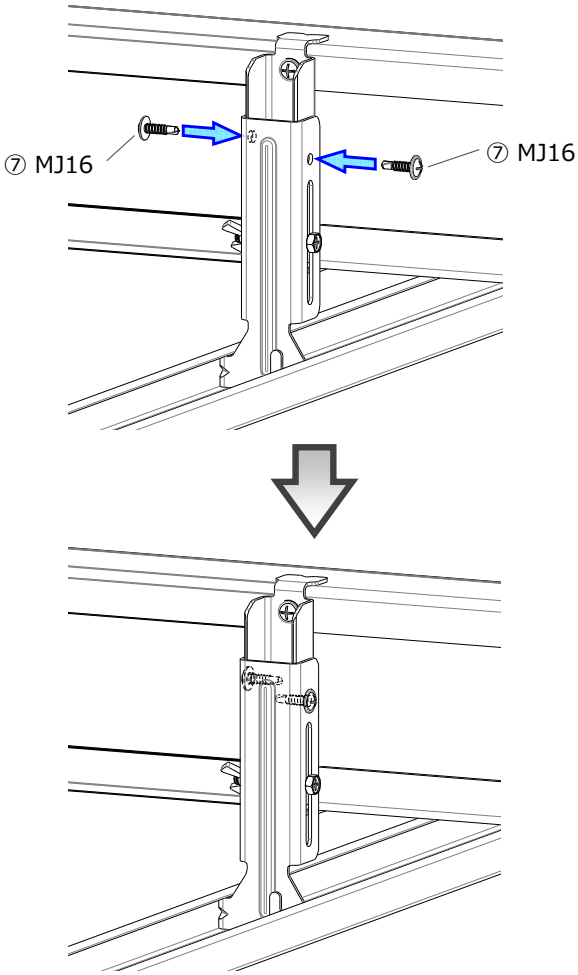
②ダイレクトクリップ19可動側が
(①ダイレクトクリップ固定側に対して)
大きく傾かないようにしてください。



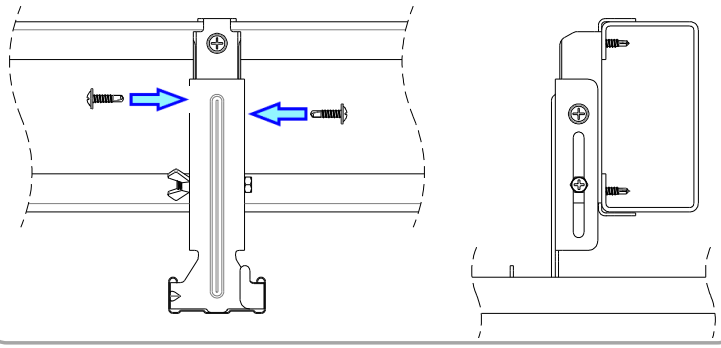
6-5　②ダイレクトクリップ19可動側 と ①ダイレクトクリップ固定側 を ビス固定

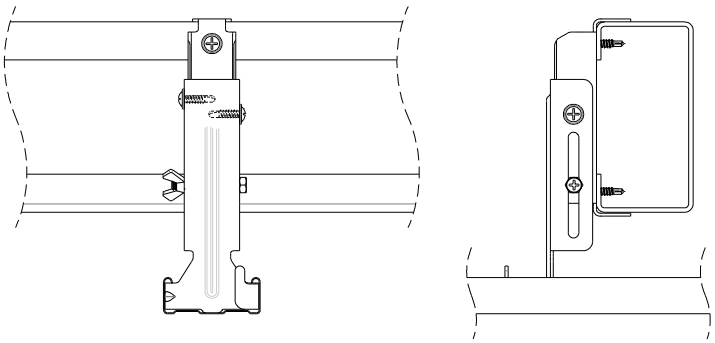
ビス留め位置が 支持構造部材 に近接しており、電動工具本体が干渉し、ビスを垂直にねじ込むことが困難な場合があります。
長尺(ロングタイプ)のビット等をご使用いただき、ビスが部材に対し垂直に近い角度になるようにご配慮ください。

②ダイレクトクリップ19可動側 側面上部の穴を用い、ビス固定 2か所



2か所のビス位置は上下方向にずれています。

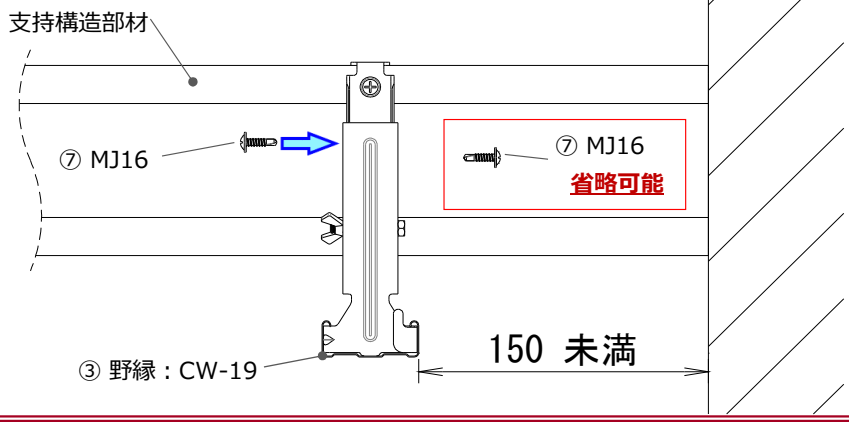




壁際へ設置する場合

壁側からのビス固定が施工上不可能であるときは、壁側のビス固定を省略できます。

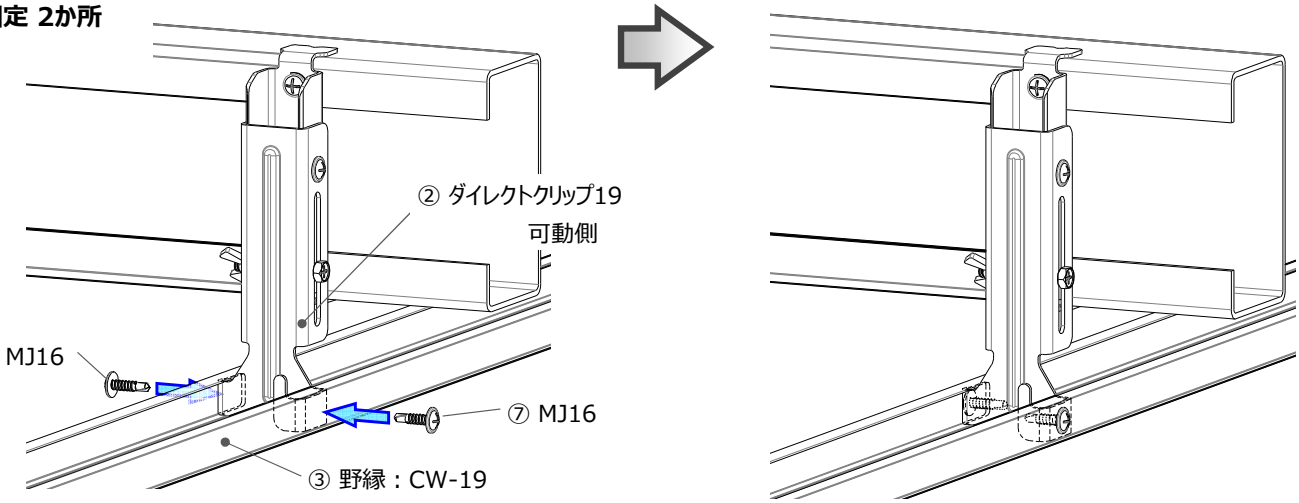
但し、壁から ③野縁 までの距離が 150 ㎜未満の場合に限ります。



ビス固定の後、⑤アプセットボルト M5×35 と ⑥蝶ナット 2種 M5 に緩みがないことを確認してください。
緩んでいる場合は、脱落しない程度に増し締めしてください。

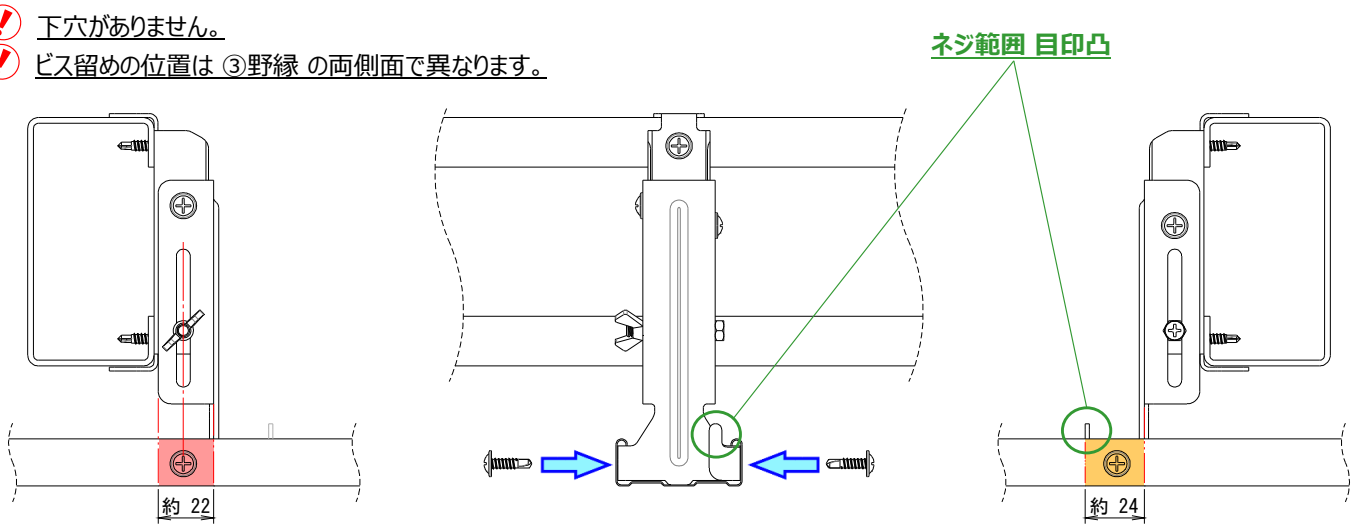
6-6　③野縁 と ②ダイレクトクリップ19可動側 を ビス固定

ビス固定 2か所



下穴がありません。

ビス留めの位置は ③野縁 の両側面で異なります。



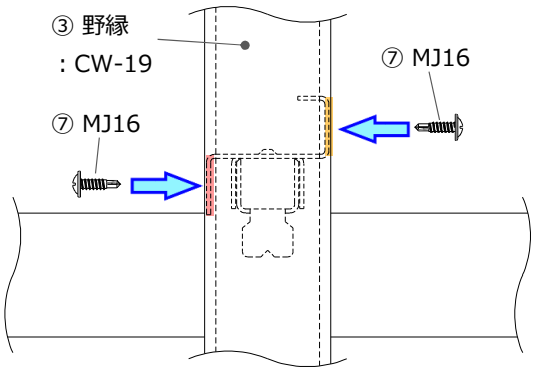
ネジ頭 を以下範囲に収めてください。

【範囲】

②ダイレクトクリップ19可動側の
コ形側面幅（約22 ㎜）

【めやす】

②ダイレクトクリップ19可動側の
長穴位置



ネジ頭 を以下範囲に収めてください。

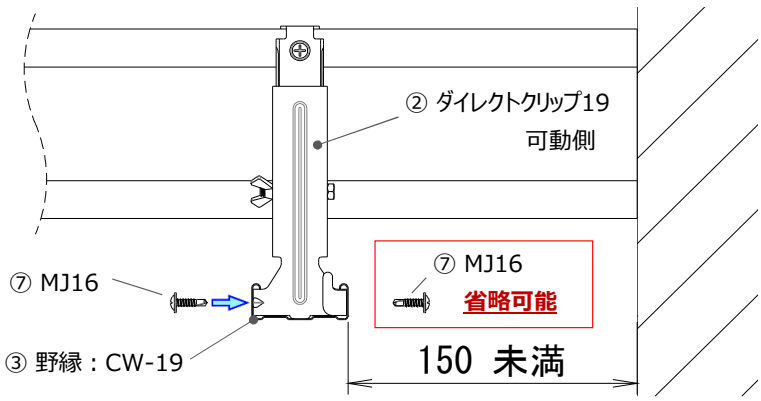
【範囲】

目印凸 と
②ダイレクトクリップ19可動側
コ形側面の始まり　の間
（約24 ㎜）

壁際へ設置する場合

壁側からのビス固定が施工上不可能であるときは、
壁側のビス固定を省略できます。

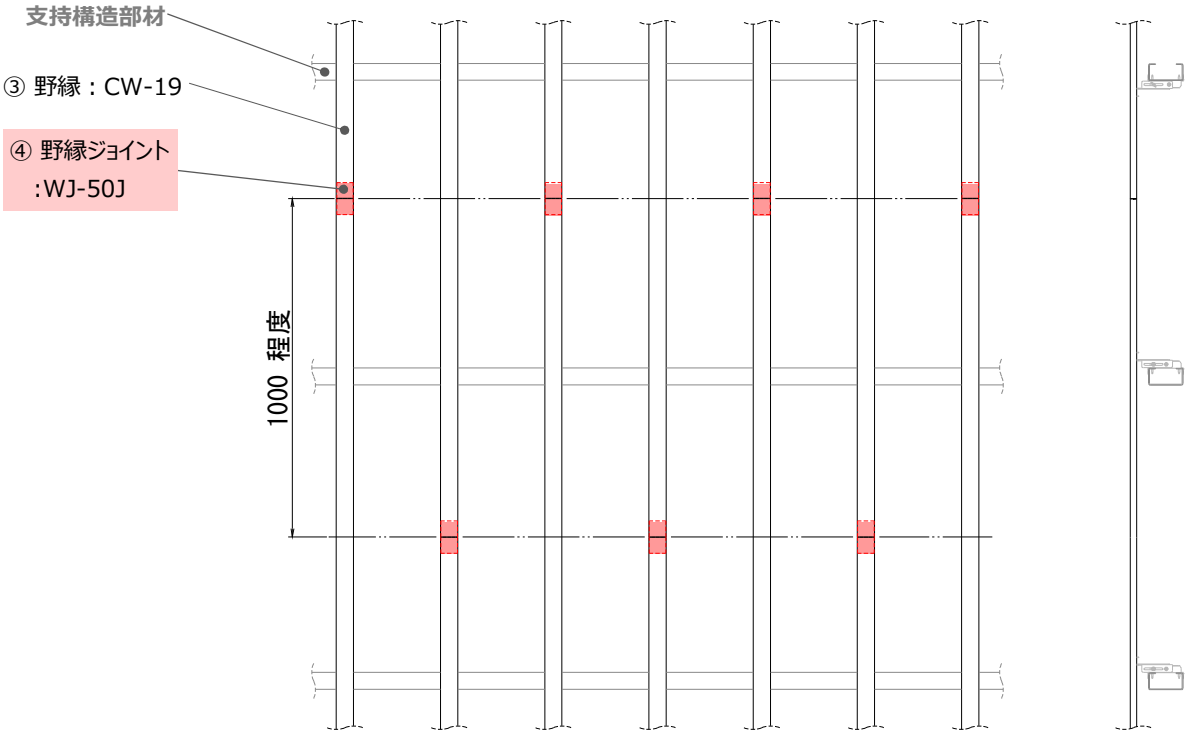
但し、壁から ③野縁 までの距離が
150 ㎜未満の場合に限ります。



7.　施工例・納まり例 他

丸囲み数字①～⑨ は 部材を表しています。

7-1　③野縁 を連結する際は、④野縁ジョイント を使用してください。
隣接する ③野縁 の連結位置は、 1000 ㎜程度離し、千鳥状にずらして配置してください。

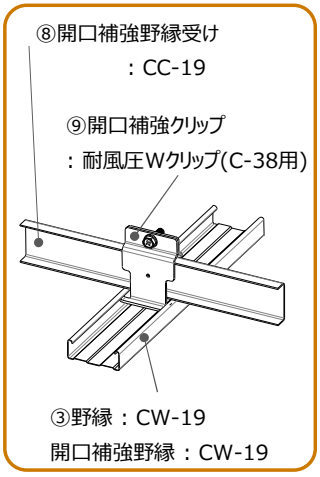


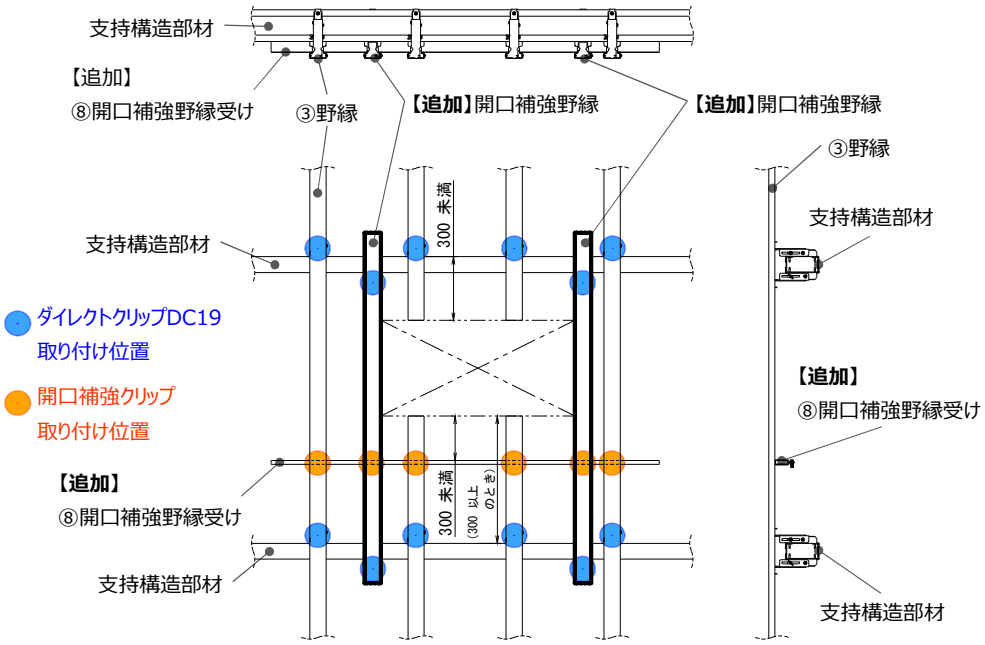
7-2 開口部の補強 例

1．開口に合わせて開口補強野縁を追加設置してください。
2．支持構造部材(ダイレクトクリップDC19取り付け面)からの ③野縁 のはね出し寸法は 300 ㎜未満としてください。
3．支持構造部材(ダイレクトクリップDC19取り付け面)からの ③野縁 のはね出し寸法が 300 ㎜以上となる場合は、
はね出し寸法が 300㎜未満となるように、
開口部にかかる ③野縁 本数に応じて、⑧開口補強野縁受け または 支持構造部材を追加設置してください。
4．⑧開口補強野縁受け を追加設置する場合、⑨開口補強クリップを使用し、ゆるみ、がたつきがないように留め付けてください。
5．開口補強野縁の組み付けについて。
②ダイレクトクリップ19可動側 と ①ダイレクトクリップ固定側 のビス固定について、隣接するダイレクトクリップDC19が近接していて、
ビス固定が施工上不可能である場合は、ダイレクトクリップDC19を取り付ける面を反転してください。
6．開口補強野縁のビス固定について。
開口補強野縁 と ②ダイレクトクリップ19可動側 のビス固定について、隣接する ③野縁が近接していて、
ビス固定が施工上不可能である場合は、ビス固定 2 か所のうち 1 か所を省略できます。

開口部にかかる
③野縁 本数：２本以下

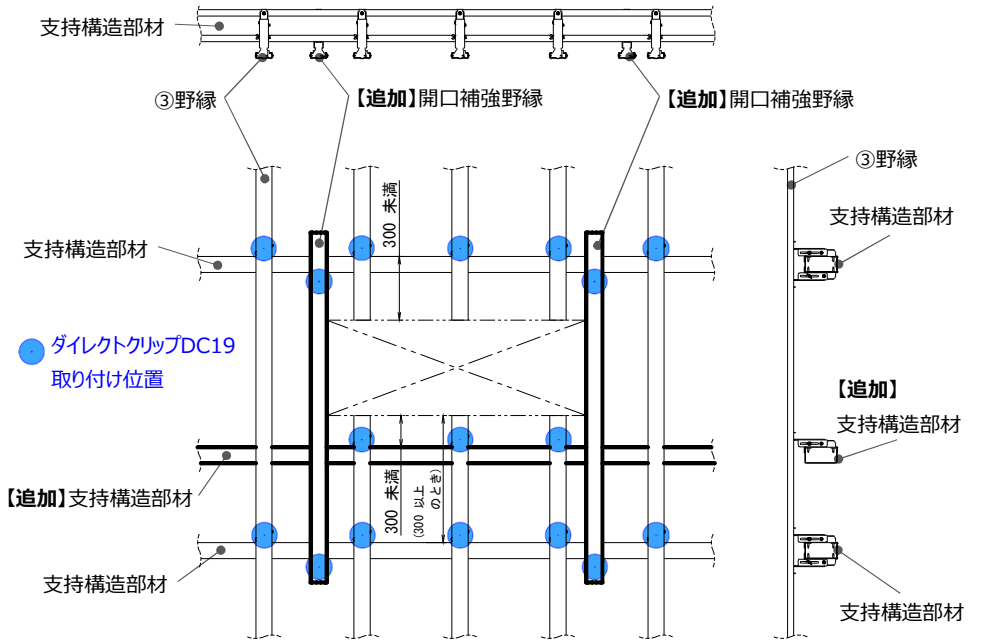
⑧開口補強野縁受け を追加設置





開口部にかかる
③野縁 本数：3本以上

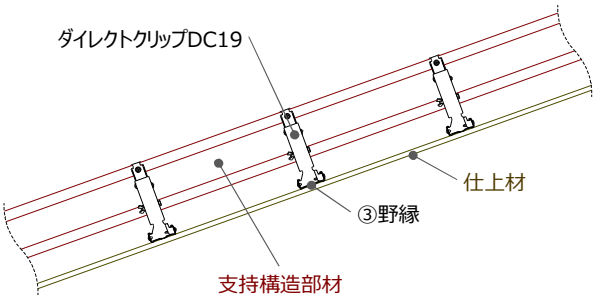
支持構造部材 を追加設置



7-3 勾配･段差の例

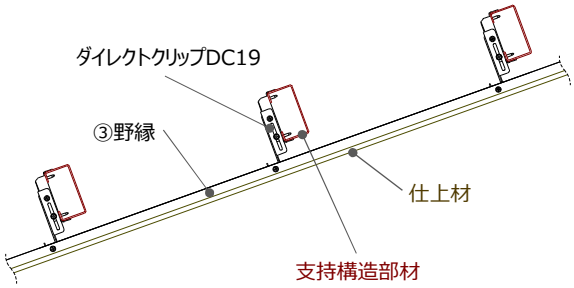
1．勾配天井 例

・野縁直交方向 の勾配



支持構造部材が
天井の勾配に沿って傾斜していること。

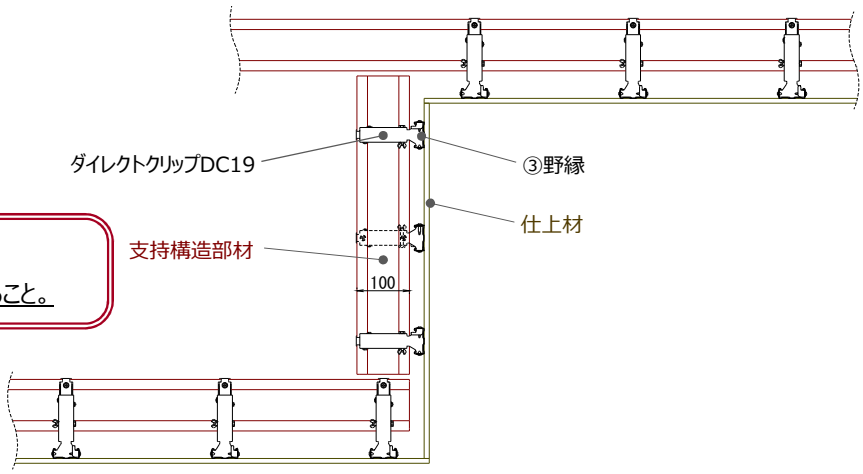
・野縁方向 の勾配



支持構造部材**断面**が
天井の勾配に沿って傾斜していること。

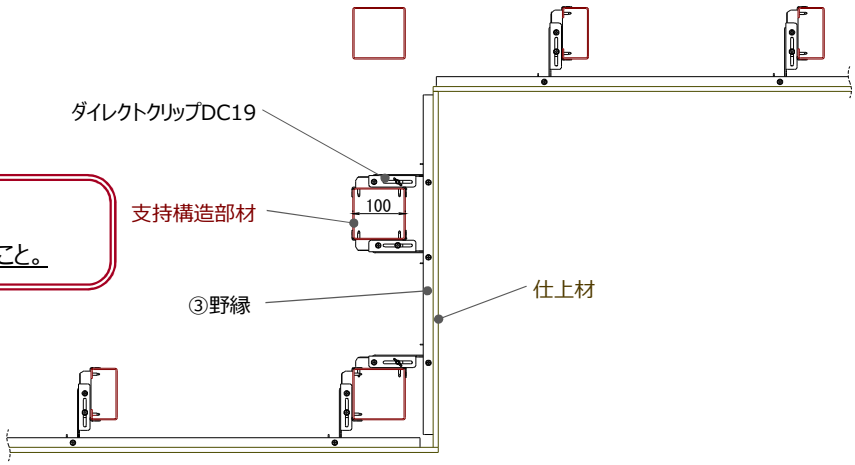
2．段差天井 例

・野縁直交方向 の段差



段差部 支持構造部材断面の
水平方向寸法が　100 ㎜であること。

・野縁方向 の段差



段差部 支持構造部材断面の
水平方向寸法が 100 ㎜であること。

付録 自主検査表

ダイレクトクリップDC19施工

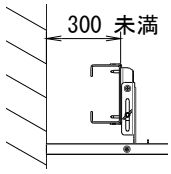
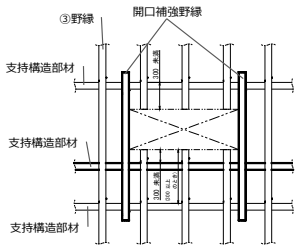
年　　月　　日　　提出

工事名			
施工期間	年　月　日　～　年　月　日		
施工者		工事管理者	
点検者		工事監理者	
検査箇所(区画名等)			

■仕様

支持構造部材	☐ □-100×50×____	☐ □-100×100×____	
	☐ C-100×50×20×____	☐ その他（　　）	
	支持構造部材ピッチ　　mm		
天井	天井面積　　m²	天井高　CH ＝　　m	
	野縁　☐ CW-19	野縁ピッチ　　mm	
	仕上材		

■点検結果

工程・部位	管理項目	測定方法	管理許容値	検査確認 チェック	検査実施 年月日	時間
支持構造部材 	（③野縁のはね出し寸法） 壁⇔[支持構造部材 ダイレクトクリップDC19 取り付け側面] 距離 300 ㎜未満	巻尺等	300 ㎜未満			
2. ①ダイレクトクリップ固定側 を 支持構造部材 へ固定	ビス固定 2か所／金具１個	目視	2 か所			
5. ②ダイレクトクリップ19可動側 と ①ダイレクトクリップ固定側 を ビス固定	ビス固定 2か所／金具１個	目視	2 か所			
	1か所を省略している場合， 壁から③野縁までの距離	巻尺等	150 ㎜未満			
6. ③野縁 と ②ダイレクトクリップ19可動側 を ビス固定	ビス固定 2か所／金具１個	目視	2 か所			
	1か所を省略している場合， 壁から③野縁までの距離	巻尺等	150 ㎜未満			
開口部の補強 	開口補強野縁が 設置されている	目視	－			
	③野縁のはね出し寸法 300 ㎜未満 (⑧開口補強野縁受け 及び 支持構造部材の追加設置後)	巻尺等	300 ㎜未満			

ダイレクトクリップDC19　標準施工要領書

管理番号	適用年月日	改訂履歴
[2025.08]	2025年 08月 01日	初版
[2025.11]	2025年 11月 19日	本社住所変更他

SATOCK®
株式会社 佐藤型鋼製作所

広島県広島市中区寺町2-23
TEL 082-237-1962 FAX 082-237-4703

© 2025 株式会社佐藤型鋼製作所
本書の無断複製、転載、および転用を禁じます。